



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

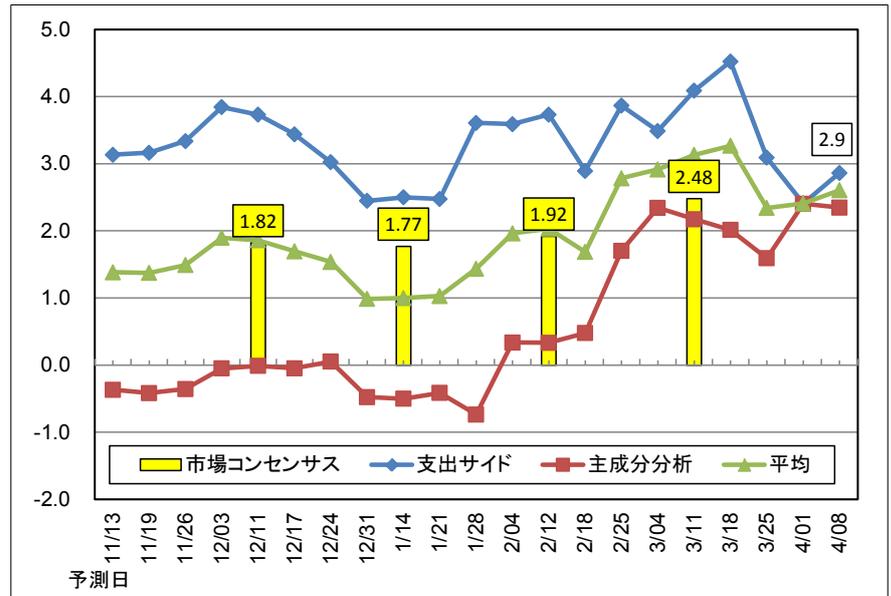
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年4月8日)

ポイント

- ▶先週(4/1-4/5)は、3月の新車販売台数、食料安定供給、2月の毎月勤労統計、消費総合指数及び景気動向指数が更新された。
- ▶これらのデータは民間最終消費支出、公的企業在庫品増減及び雇用者報酬の予測に影響する。
- ▶2月の消費総合指数は2ヵ月連続で前月比プラスとなったため、今週のCQM(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を先週(前期比年率+2.4%)から小幅上方修正して+2.9%と予測。
- ▶日銀は異次元ともいえる大胆な金融緩和を打ち出した。一方、市場はこれに対して荒っぽい反応(国債金利の乱高下)を示した。
- ▶金融政策の影響を受け先行き期待は大きく改善しているが、実物経済に波及するまでには時間がかかる。ジャンプスタートはできないのだ。
- ▶規制緩和と大胆な成長戦略が成長率引き上げ(またはデフレ脱却)の王道である。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年1-3月期(%, 前期比年率換算)



<大胆な金融緩和で先行き期待は大きく改善しているが、実物経済はジャンプスタートできない>

先週(4/1-4/5)は、3月の新車販売台数、食料安定供給、2月の毎月勤労統計、消費総合指数及び景気動向指数が更新された。また日銀短観3月調査結果が発表された。これらのデータは、民間最終消費支出、公的企業在庫品増減及び雇用者報酬の予測に影響する。

民間最終消費の総合的な指標である消費総合指数は、2月に前月比0.4%上昇した。2ヵ月連続のプラスで事前予測を上回ったため、1-3月期の実質民間最終消費支出の予測値は先週から上方修正された(前期比+0.5%→同+0.7%)。この結果、今週のCQM(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を、内需の増加幅は拡大するが、純輸出が小幅縮小するため前期比年率+2.9%と予測する。先週の予測(+2.4%)から小幅上方修正である。

2月のCI先行指数は前月比2.5ポイント上昇し、3ヵ月連続の上昇となった。改善幅は過去4番目の大きさ。企業センチメントの改善で構成指標の中小企業売り上げ見通しDIの大幅改善が寄与した。一方、3月日銀短観によると企業の景況感を示す業況判断DI(全産業ベース)は3期ぶりの改善となったが本格的回復はまだ先である。同調査によると、2013年度経常利益計画は前年比+5.9%と増益が見込まれているが、設備投資計画は同-3.9%と慎重な姿勢となっている。

4日に日銀は異次元ともいえる大胆な金融緩和を打ち出した。株高とインフレ期待が高まり金利低下が続けば内需刺激を通してデフレ脱却を見通せる。一方、市場はこれに対して荒っぽい反応(国債金利の乱高下)を示した。金融政策の影響を受け先行き期待は大きく改善しているが、実物経済に波及するまでには時間がかかる。ジャンプスタートはできないのだ。規制緩和と大胆な成長戦略が成長率引き上げ(またはデフレ脱却)の王道であることを忘れてはいけない。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550